

地域の方々が要望していた

～「阪南公設市場跡地」を地域防災活動拠点として位置付ける方針を橋下市長が表明～

以前より、阪南地域の住民の皆さんが要望していた「阪南公設市場跡地」活用方法について、大きな前進がありました。橋下市長はこの度、該当地に関して、売却方針から一転し、「防災公園として位置付けた整備の方向に」と表明しました。

今後は住民の皆様と市・区・消防局を含めた関係各局とが協議する方向となっております。災害時には一時避難所として、また、日頃は地域防災活動や地域活動の場としても使える防災公園として整備される予定です。

大規模災害時、空地の少ない住宅密集地である阪南地域において、現在、大阪市が指定する避難場所は、阪南小学校・阪南公園・播磨大領公園の3か所です。しかし、南港通より南の住民の皆様にとっては播磨大領公園が近



距離の一時避難所となりますが、公園が住吉区との境界になっており、区境の場所に避難する形になります。また、南港通より北側は大阪市が指定する密集市街地であり、特に防災対策が必要な地域です。

阪南地域の住民数を考えると、想定される被災者数は、現状の防災拠点だけでは対応できません。また、南部地域にはお年寄りや単身高齢者世帯が多く、万が一の場合、南港通を横断しなければならず、指定避難場所への誘導や補助には人手が足りない状況が想定されます。こうしたことから、以前より、地域住民の皆様が一丸となって「阪南公設市場跡地を防災公園に」と要望しており、改めて2014年10月には2,676名分の署名が市長及び阿倍野区長に提出されていました。また、私自身、防災面の地域実情を踏まえると、皆さんと同じくその必要性を感じ、2014年11月、市長に大阪維新の会阿倍野区選出議員団による要望書を私から提出しました。

当初、大阪市は財政状況を鑑み該当地を売却する方針でした。今回、市長が方針を変更したのは、「地域のことは地域で考え、責任を持つ」という住民自治の姿が署名活動を通して垣間見られ、その後押しによって、改めて防災面での行政的な判断を再検討したからだと思われます。今後「阪南公設市場跡地」に関しては、市・区・消防局を含めた関係各局と共に、地域住民の皆様が参加しながら「どのような設備を整えた公園にするか」という計画段階から、維持・管理等に至るまで協議を行うこととなります。

自分たちの住む地域の課題・問題を住民同士で話し合い、物事が決まるまでの過程を理解し合う。また、決まったことは責任をもって行動し、住民同士、お互いを支え合い、助け合うという地域社会。さらに、自らできることをできる範囲で行い、そして、その支援を行政がする。これこそ「住民自治」の本質ではないでしょうか。私自身、要望書を提出させて頂いたのも、阪南地域の皆様の住民自治のサポートになればとの思いでした。自助・共助・公助が大切な現在、政治家に求められるひとつにはその橋渡しの役割であり、常に住民の皆様との身近な政治家でありたいと改めて感じました。

阿倍野区内の防災活動拠点の一例 まつむし広場

通常時
ソーラー照明、倉庫、芝生広場、テラスガーデン、フラワードック、かまどベンチ、手押しポンプ及び貯水槽

災害時
(芝生広場) 救護・配給、テント設置、給水地点として活用
(倉庫) 防災用具の保管・活用
(手押しポンプ等) 雨水を活用した初期消火活動
(テラスガーデン) 救護物資の荷下ろし
(かまどベンチ) 避難者への炊き出し
(掲示板) 災害情報の指示

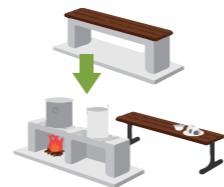
所在地：松虫通 1-2
敷地面積：約 365 m²

大阪市では、地域の皆様と連携・協働し、地域の防災力の向上を目的とした「まちかど広場」の整備に取り組んでいます。阿倍野区では平成 23 年 3 月に松虫通 1 丁目に「まつむし広場」として市内 8 か所目として完成しました。災害時の救護スペースとして活用できる「芝生広場」や、初期消火用の「雨水貯留槽」と「手押しポンプ」、炊き出し可能な「かまどベンチ」、防災道具を収納する「防災倉庫」等、地域のみならずアイデアが取り入れられた広場となっています。



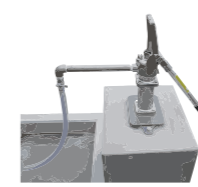
《防災公園等で設置されている設備の事例》

◎ かまどベンチ



通常時はベンチとして使用しますが、災害時には座席をはずすと「かまど」として利用できます。

◎ 手押しポンプ



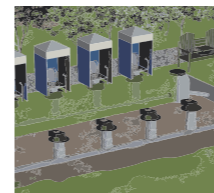
水道などのライフラインがストップした時に利用できる、手動のポンプ。災害時には水洗トイレ用水、消化用水など汲み上げに利用します。

◎ ふじ棚・パーコラ



普段は休憩施設として利用し、災害時にはテントを張ることにより、風雨を避け、寒さ対策の役割も果たします。救護室や支援物資の保管・仕分け場所等に利用できます。

◎ 仮設トイレ用マンホール



下水道管路上に直接仮設トイレを設ける設備です。下水道に直結しているので汚物を直接流すことができ、滞留・流出に伴う伝染病の発生など、衛生状態の悪化を防げます。

◎ 耐震性防火水槽



地中に埋め込まれた水槽で、災害時の同時多発火災に対して、水道管が寸断された場合であっても、消火活動に活用できます。

◎ ソーラー発電の公園灯



停電した場合でも、ソーラー発電により照灯することができます。この灯かりを目印に避難場所が分かります。

Pick Up あべの 住民自治の原動

阿倍野元町「一二三（ひふみ）会」の防犯夜回り活動



昨年末、年の瀬の慌ただしい中にもかかわらず、歳末夜警に取組まれている皆様に御礼の意を込めて、各詰め所にご挨拶で訪問させて頂きました。

連日の寒さ厳しい夜間の警戒活動は、火災予防のみならず防犯としても大きな効果があり、「安心・安全」の街づくりはこうした活動のひとつひとつの積み重ねで成り立っているのだと改めて感じました。本当に感謝の気持ちで一杯です。

さて、みなさん、阿倍野元町地域で行われている、防犯夜回り活動をご存知でしょうか？

夜の帳が下りる頃、お揃いのジャンパーで、拍子木や赤く点灯するバーをそれぞれが持ち、「戸締り用心、火の用心」と声を掛けあいながら、隈なく路地を巡回されている方々がおられます。この活動は「一二三（ひふみ）会」との名称で、月3回、阿倍野元町の第一・第二・第三町会の住民の方々が自主的に地域の夜間パトロールをされているのです。

この夜回りが始まったのは、約6年前。町会内で起きたひったくり事件がきっかけで、危機感を持った住民有志が自発的に始められました。夏の暑い日も、冬の寒い日も毎月欠かすことなく定期的に行われております。また、日常的に普段から腕章を付けて地域の見守り活動をされている方もいらっしゃいます。

阿倍野元町地域では、この「一二三（ひふみ）会」の自主活動以外にも、町会をはじめ、地域の方々の尽力により、防犯カメラを設置される取り組みなど、自主的に地域の防犯対策をされています。自分たちの生活を自分たちで守るのは、住民自治の重要なひとつであり、このような活動が平和な街づくりの礎になっています。私も参加させていただく中で、住民自治の大切さを改めて感じました。1つの地域での活動が阿倍野区内で拡がり、点と点が線になり、ひいては区全体で面となるように応援させて頂きたいと思っております。

